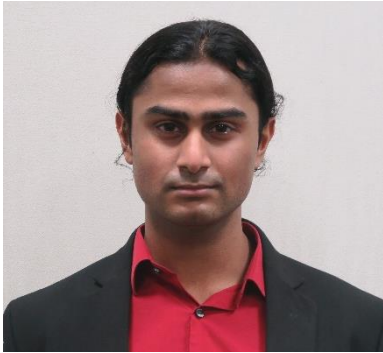


【奨励賞】



氏名 Senthil Varun
(センシル ヴァルン)

国・地域 アメリカ 

在日期間 2年5ヶ月

学校 曾於市外国語指導助手

タイトル : 反常識

常識で負けている！

常識の定義を調べてみるとこう書いてある：健全な一般人が共通に持っている、または持つべき普通の知識や思慮分別。

一般人が共通を持っていることはどう考えてもありえないでしょう？そうでなければ、ポジティブシンキングの本はそんなに売れないし、人間関係における悩みは話題にならない人はもっと多いでしょう。

普通の思慮分別というのは紋切り型の現実との接し方なのだ。人間は考えるのを避けようとするものだから、安定なシステムに頼る嫌いがある。そのため常識を常識としてのみで解決する環境を維持しようとする。常識で解決できない問題は「仕方がないな」と思われる、または、無視される。

でも、仕方がないなんてことはない。そして、無視したら、無知に苦しむ始末だ。

多くの問題の解決策を一言でいえば、常識を覆す。

具体例をあげよう。

A君とB君は入社した。A君はできるだけ迷惑をかけないようにしていた。問題があったら自分でググって解決したり、余計な話をしなかったりしていた。会社のみみんなに真面目だと思われていたが、気軽に話し合える相手がいなかった。寂しかった。逆にB君はよくまわりの人の世話になった。問題があったら同僚に訊く。あっという間にB君の周りに信用できる友達が多くなった。当然ながら、B君をちょっと面倒くさいと思う人もいたが、8時間以上もいる職場は心地よい環境だった。

A君は迷惑をかけないという常識のルールに従っていた。B君はそのルールを破って、反常識のルールを発見した：「愛される人ほど人に迷惑をかけている」。

人間は一貫性を求めるのだ。矛盾が嫌い。ゆえに、一貫性を維持するために、手伝った

相手への気持ちはポジティブになる。

みんなはこの反常識のコツを身に着けたら、疎外感を抱いている人が少なくなるのではないか。

反常識でうまくいくのは人間関係に限らず、教育もうまくいくのだ。外国語教育の例をあげよう。

なぜ日本で英語でコミュニケーションができる人は非常に少ないか？外国語教育制度はアウトプットが重視しているからだ。文法と単語を覚えて、頭で日本語の文を直訳して、英語で発言する。なんという不自然な話し方ではないか！

今までの外国語で流暢になった人はみんな独学している。アウトプットよりインプットが百倍多い。発言力はインプットで決まっているから。

つまり、話すより聞くべきだ。書くより読むべきだ。幼児英会話よりSpongeBobだ。いうまでもなく、アウトプットもしないといけな。しかし、アウトプットできる範囲はインプットの範囲の一部に過ぎない。

今の外国語教育制度の常識を覆さないと、生徒たちの英語力は上がらない。

次は心理の例をあげよう。

現代社会は幸せを優先する。ほとんどの人が幸せに追うが、幸せな人は非常に少ない。なぜだろう？そして、どうすればよいだろう？

哲学者のスラヴォイ・ジジエクに言わせると「幸せは重要ではない。問題は本当に何が欲しいかわからないことである。欲しいものを得ることで幸せになるわけではない。欲求することだけである。日和見主義者しか気にしないものだ。ゆえに、満足できる人生とは永遠の闘争という人生であると思う。特に自分との闘争が。幸せになりたいなら、バカになれ。本当の名人は幸せであることがない。幸せを求めるのは奴隷だ。」

厳しく常識を覆している言葉だ。幸せを追わなくて、自分との闘争して、満足できる人生を生きよう。自分との闘争とは反常識を生かすことかもしれない。多くの問題は反常識の対策で解決できると伝わただろうか？

三つの具体例は十分だから、また抽象的な話に戻ろう。あらゆる状態での使い方には三つのステップがある。

1. 問題があるということを確認する。
2. ある状態の動作原理を見つける。
3. 常識を覆して、行動する

もちろん、これが絶対上手くいくとは限らないが、試行錯誤するまでだ。皆さんがいろいろと勉強して、「一般人が持っている」知識が及ばない知恵を身に着けて、色々な状態で常識を覆したら、今までない解決道を見つけるだろう。反常識は新常識になる。

そして、それも駄目になって、またその常識を覆さないといけなくなる。これは常識のみならず人間の進化だ。

ご清聴ありがとうございました。